

日本初の公開ホームページは KEK から

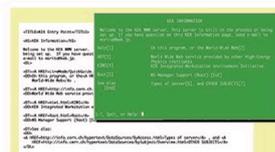
～情報はネットワーク上でみんなと共有して、はじめて価値が生まれる～

今や我々の生活に欠かせないインターネット。日本から初めてとなるウェブページが世界に向けて発信されたのはKEK からでした。

1980年代中頃、超大型の加速器建設計画が始まります。情報交換は、図面や書類の交換、テレビ会議なども使う必要がありました。ネットワークをもっと有効に使った情報共有の一つとして「Webの生みの親」、CERNのバーナーズ＝リー氏のチームがWWWを開発しました。

CERNを訪れた森田氏はさっそくCERNの端末室でHTMLファイルを作り、KEKのサーバー上に置き、このKEKのアドレスをCERNのリンク集のページに加えてもらいました。これが日本で初めてのウェブページとなりました。1992年9月30日のことです。

日本初のウェブページ(再現)



KEK資料室にある日本初のウェブページを発信したコンピューター

WWW

CERNで開発されたWWW(CERNではW3と呼んでました)は、その後普及していきますが、CERNは1993年4月30日、サーバーや共通コードのライブラリなどのソフトウェアについて誰でも自由に使えるパブリックドメインとすることを宣言しました。



研究者のつばやき・・・

インターネット黎明期からその歴史を知る、KEK 計算科学センターの研究者によると、研究のための情報交換には、昔は電話回線で相手呼び出し、キーを打つと相手の端末に文字が出る「テレックス」を使用していた時期もあったといいます。同氏は、「インターネット (WWW) については、学術上の情報を共有するには便利だとは思っていたが、ここまで一般に広がるとは思っていなかった」と、現在の急速な広がりを、驚きをもって受け止めていると語っています。

波及効果

日本で一番最初に作成された Web ページは、1992年2月に作られたNTT基礎研究所(当時)の奥乃博さんによるものであるとされており、インターネットには公開されていなかったため、現在のところ日本最初の公開ページはKEKのページであるということになっています。CERNの世界最初のwebページからリンクされた日本最初のWebページは KEKのページであるのは確かですが、その他に、これより前に実験的に公開されていたり作成されていた 先駆的なWebページがあるかもしれません。



もっと知りたい方はこちらから

